



茶席を彩る 中国の やきもの

Chinese Ceramics that Adorn the Tearoom

2019.5.25sat - 8.4sun

【休館日】月曜日(祝日の場合は翌火曜日)

【開館時間】午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【入場料】一般900(700)円/高大生500(350)円/小中生200(100)円

※()内は前売り(一般のみ)・20名以上の団体料金

【主催】公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art



中之島香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山龍平(1850~1933)が収集した、日本と東アジアの古い美術品を公開するため、2018年3月に香雪美術館(神戸市東灘区御影)の分館として開館しました。

村山は、美術品を収集し茶の湯に傾倒していくなかで、茶会で使用するための茶器や懐石道具を集めました。このなかには、鎌倉時代から近代にかけて日本へもたらされた中国陶磁が、少なからず含まれていることから、村山コレクションの中国陶磁は、中世から連綿と続いた貿易陶磁史の縮図とも言えます。

本展では、室町時代に舶来の茶器として珍重された天目茶碗や青磁の花瓶、明時代末期の景德鎮窯で制作された「古染付」「祥瑞」と呼ばれる鉢や皿など、茶席に彩を添える中国陶磁約100点を一堂に紹介します。

《表面》上から時計回りに、建窯 油滴天目 南宋時代(12~13世紀)/漳州窯 泉州赤絵花鳥文皿 明時代末期(17世紀)/景德鎮窯 祥瑞捺文鉢 明時代末期(17世紀)/吉州窯 梅花天目 南宋時代(12~13世紀)/龍泉窯 青磁牡丹唐草文鉢 元時代(14世紀)/景德鎮窯 五彩花鳥図皿 明・萬曆年間(1573~1620)
《裏面》①景德鎮窯 古染付鹿馬図富士山形鉢 明時代末期(17世紀) ②唐物 肩衝茶入 銘 葉師院 南宋~元時代(13~14世紀) ③龍泉窯 青磁荷花入 南宋時代(13世紀) ④景德鎮窯 色絵園龍花卉文水指 明時代末期(17世紀) ⑤漳州窯 交趾大亀合明 明時代末期(17世紀) ⑥景德鎮窯 瑠璃蓮文水注 明時代後期(16世紀)
※作品はいずれも村山コレクション

【記念講演会】

2019年7月27日(土) 14:00~15:30

「青磁と天目」

—中国陶磁史研究の最前線から—

講師：徳留大輔氏

(出光美術館学芸員)

会場：中之島会館

(中之島香雪美術館隣)

参加料：1,300円

(美術館入館料含む)

定員：250名

【応募方法】

●往復ハガキ(1枚で2名様まで応募可能)に、参加希望人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、郵送でご応募ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。当選者には、返信ハガキで参加証を郵送します。
●宛先：〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階 中之島香雪美術館 徳留大輔講演会係 ●締切：7月5日(金) 消印有効 ●美術館は午前10時開館です。講演会前に展覧会をご覧いただくことも可能です。



【ギャラリートーク】

展覧会場における学芸員による展示解説

6月1日(土)、7月6日(土)、8月3日(土)

いずれも15:30~(1時間程度)

【次回の展覧会】

特別展「交流の軌跡」

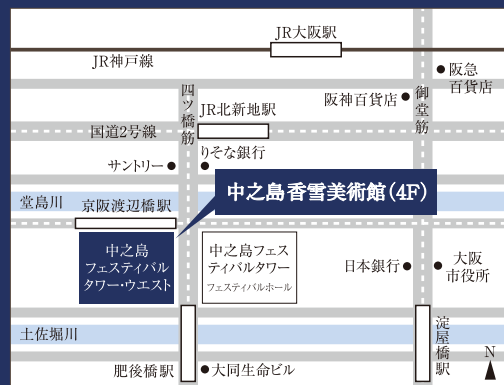
—初期洋風画から輸出漆器まで—

2019年10月12日(土)~12月8日(日)

【香雪美術館(神戸・御影)の展覧会】

「羅漢さん 仏教を護る聖者たち」

2019年5月18日(土)~7月15日(月・祝)



《アクセス》

OsakaMetro四つ橋線「肥後橋」駅4番出口、京阪中之島線「渡辺橋」駅12番出口直結、JR「大阪」駅桜橋口より徒歩約11分、OsakaMetro御堂筋線「淀屋橋」駅7番出口より徒歩約8分、JR東西線「北新地」駅11-5出口より徒歩約8分

〒530-0005

大阪市北区中之島3-2-4

中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階

TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190

<http://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/>

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art